



理念

私達は、高い志をもち、時代の要請に基づき先駆的に社会福祉の充実を図るため、利他の精神をもって活力ある経営を行い、社会福祉法人としての責務を果たし、社会に貢献してまいります。

オンライン
面会中!

特別 企画

コロナに負けない!
みんな一緒に乗り越えよう!!

いずみの苑



人類とウイルスとの戦い

理事長 山口 桂造

人類とウイルスとの戦いは、太古の昔より繰り返し発生していると言われています。今から100年ほど前、第一次世界大戦の最中には、いわゆるスペイン風邪が大流行しました。両軍の兵士がばたばたと倒れ、ついには停戦となったほどでした。

日本でも多くの方が亡くなりました。その後、昭和初期の大恐慌で多くの方が職を失いました。人々が兜町を彷徨っている写真が今も心に残っています。

スペイン風邪から100年後の現在、世界は再びウイルスとの戦いの中にありますが、大恐慌が繰り返されることがないように、政府には適切に手を打ってほしいと思います。

当法人は、利用者、職員の若干名が罹患しましたが、感染症対策を徹底し、その後感染拡大することなく、各施設とも運営しています。

新型コロナウイルスの一日も早い終息を心から願うとともに、職員全員がこの難局を乗り越えられるよう、法人としても最大限努力してまいります。

特別 企画

コロナに負けない！
みんな一緒に
乗り越えよう！！



高島平福祉園

再開しました！ 3時café



新型コロナウイルス感染防止のため、3月上旬から8月下旬まで、3時caféの営業を自粛しておりました。3時caféは西台団地住民の方々を中心に、皆様の「居場所」として活用していただいています。営業再開

を迎えるにあたり、お客様がまた来て下さるか不安に感じていましたが、おなじみの常連さんが来店してくださりホッと胸を撫で下ろしました。飛沫防止ボードの設置、来店客数の制限、マスク着用・検温・消毒の実施など、感染対策を実施し、お客様に安心してきていただけるよう感染防止対策を徹底して行っています。

新型コロナウイルスに負けずこれからも
頑張っていきたいと思えます。

蓮根福祉園

頑張ってます！ ろーたすの家

新型コロナウイルスの影響で作業収入が大幅にダウンしましたが、長年積み上げた信頼関係をもとにインターネットや置き菓子とした新たな販路を見つけ利用者・職員が一体となって頑張っています！！

- ① ネット販売：おおきな木・creema
- ② 置き菓子：商店街・近隣企業・福祉施設



Lotus no ie

そんな蓮根福祉園
ろーたすの家の商品を
一度ご覧ください。

フォロー
してね！

Facebook
蓮根福祉園はコチラから▶



コロナとの生活は大変ですが、楽しく
過ごせるよう一緒に頑張っていきましょう！

目黒区東が丘障害福祉施設

発想の転換で、 おしゃれに、楽しく

新型コロナウイルス感染症の対策グッズとして、マスク止め二種(本革、ビーズ)を企画販売しました。口コミでの受注も増え、増産に取り組んでいます。

宿泊活動は、施設内行事に変更し、「Go to virtual travel for 山梨」を実施しました。仮想映像は、工房バスで施設を出発するシーンからスタートし、名所を巡りました。ご当地グルメやお土産をお取り寄せし、観光した気分を楽しみました。



正しい感染症予防で、感染しない、うつさない行動に努め、お互いに気を配りながら協力して、この状況と一緒に乗り越えましょう。

三園福祉園

そうだ、布マスクを作ろう！

三園福祉園では布マスクを製作し、園内と高島平駅(スマイルマーケット)で販売しています。どんな形がいいのか？ 着け心地はどうか？ と試行錯誤を繰り返し、完成しました。

現在まで約250枚売れています。第2弾の夏バージョン「涼感マスク」を大450円、中350円、小350円で販売中です。手作りなのでたくさんはできませんが、この布マスクを使っただけ、地域の方々に三園福祉園を知っていただく機会として大切にしたいと思っています。



コロナ終息をねがいつつ布マスクを生産していきます！

田柄福祉園

おしゃれマスクの ファッションショー

コロナウイルスの影響で利用者のみなさんの気持ちが落ちてしまいそうなこともあります。そんな時、誰かがみんなのマスク姿を見て、「マスクのファッションショーみたい!!」と言いました。それからは嫌々着けていたマスクがおしゃれアイテムに大変身。「マスクがステキですね。」と声をかけると、マスクをしていてもわかるくらいの笑顔が返ってきました。



見方一つでいろいろな所に笑顔に変えられる機会があるかもしれません。大変な時代ですが、withコロナの中で気持ちを前向きに今ある楽しみを見つけていきましょう。



豊島寮

コロナ禍に負けないために

自立支援センター豊島寮は約70名の利用者が共同生活する施設であり、所謂「3密」になりやすい特性を考慮して新型コロナ対策に取り組んでおります。

館内各所への消毒薬の設置、対面が想定される場所への防疫シートの設置、食堂席数の削減・配置変更、非接触体温計とパルスオキシメーターの導入といった設備面での対策と、館内のマスク着用や、うがい手洗いの励行、定期的な居室の換気を行うよう、日々注意喚起放送を行い、利用者の感染予防意識の啓発や、週3回の一斉検温の実施等、運営面での対策にも取り組んでいます。



これから寒い季節となり、新型コロナの感染再拡大やインフルエンザとの同時罹患が懸念されておりますが、施設の垣根を越えアイデアを出し合い、法人一丸となってコロナ禍を乗り越えていきましょう！

東京高次脳機能障害者支援ホーム (HiBDY. Tokyo)

外出訓練など再開しました

東京高次脳機能障害者支援ホームでは入所による自立訓練事業を実施しています。利用者は発症～入院～退院～施設入所という経過の中で受障後に単独での外出経験が一度もない方も多く、地域生活再開に向けて外出(バスや電車の利用を含む)の能力評価や訓練が課題のひとつです。

緊急事態宣言期間中は公共交通機関利用の訓練は中止しましたが、徐々に利用者個々のニーズと衛生管理の理解を見計らいながら、こうした訓練を再開しています。



敵も先も見えない闘いですが、互いに頑張りましょう！

関町福祉園

無農薬野菜育てています！！

関町福祉園では園庭を利用して、農園作業を行っています。今年の夏は、キュウリとゴーヤが元気に育ち、収穫した野菜は、近隣の方にも購入していただけるように施設前にポスターを貼ってPRしました。

また、ボランティアさんの協力のもと綿の栽培もしています。収穫した綿を自主生産品として活用できたらと検討しています。先日、練馬大根と白菜の種を植えました。

これから芽が出て大きくなるのが楽しみです！！コロナ禍でもすくすく成長する作物にパワーをもらいながら、利用者・職員一同愛情込めて見守っています☆彡



こんな時こそ「元気で明るく」、みんなで手を携えて、利他の精神の倍返しだ！！



大泉障害者支援ホーム

楽しみました ふれEYE納涼祭

大泉障害者支援ホームの建て替え工事やコロナ禍で大きなお祭りが出来ない中、去る9月11日に納涼祭を行いました。近隣住民やご家族の同席は叶いませんでしたが、通所と入所の利用者の接触や密になる時間を極力減らす等、感染症対策を講じて行うことができました。

法被や浴衣、甚平を着て盆踊りや花火を目いっぱい楽しみ、季節感のある楽しいひと時を過ごすことが出来ました。コロナ禍の大変な中ですが、感染症対策を万全にして利用者の生活の質の向上や楽しみを一つでも多く実現できるようみんなががんばっていききたいと思います。



大変な中ではありますが、**心身の健康**を保ちながらコロナに負けず乗り越えていきましょう!

小豆沢福祉園

盛り上がった夏まつり

小豆沢福祉園では、職員全員がアルコールスプレーを携帯し、適宜消毒を行うようにしています。行事については通常開催はできませんでしたが、密を避けながら、初めての試みとなる園内行事を実施しました。

夏まつりでは、盆踊りや和太鼓を楽しみました。園内スポーツ大会では、玉入れやパン食い競争など行い、猛暑を回避しながら快適に行事を行う事ができ、利用者皆さんの笑顔であふれていました。



大変な状況が続いていますが、**楽しいことに着目し、協力して乗り越えて**いきましょう。

サルビア荘

コロナ禍でもゆったり過ごしています

新型コロナウイルスの影響もあり、地域での交流や外出の機会が以前より少なくなってしまう施設での行事や活動が出来なくなっていました。施設に居ながら少しでも出来る事はないか。このことから定期的に施設内で出来る行事を行ってまいりました。サルビア荘では、月に一度、定期的に「喫茶」と称して午後のひと時をゆっくりと過ごす行事をしています。利用者の皆さんには好きな飲み物やケーキ、和菓子を注文していただきます。美味しさと楽しい雰囲気存分に堪能していただいております。

生活様式が変化する中で過ごしづらい環境が続くと思われませんが、**皆様一人ひとりの体調に気を付けてお過ごしください。**





町田 荘

できることは何かを考えています

今まで、あたりまえと思えた入所施設の面会や外出が、新型コロナウイルス感染防止のため制限されることとなり、外出の楽しさや面会に来てくれる家族の大切さに気付きました。その対策として、skypeでのリモート面談、面会の設備を整えました。その他、施設内の加湿器に「除菌水」を使用し、仕切りに使うアクリル板をすぐに用意できない為、職員が段ボールで仕切り板を作成（現在はアクリル板を使用）しました。

毎日、朝夕2回の検温を行うときに、職員と利用者との会話が增え、できることは何かを考えています。

これからも試行錯誤して、**利用者の生活を**守り、東京援護協会を共に盛り上げていきましょう！

コロナ禍での行事の紹介

- ① たこ焼きパーティー
- ② 焼き鳥パーティー
- ③ 餃子パーティー
- ④ フランクフルトパーティー



ケアハウス松が谷

安全を守りながら 楽しい時間を！

新型コロナウイルス流行以降、施設内の定期消毒、出勤前・後の検温、消毒液を各自携帯し手指消毒をこまめに行うなどしています。まつがや高齢者在宅サービスセンターでは、Youtube映像等を活用し昔の歌謡曲鑑賞や歌リズム座位体操を行うなど形を変えて行っています。

台東区は地域のお祭りなどが中止になる中、センターでは行事を開催することができました。8月の納涼会では「縁日」を開催、今年は店舗を3店舗に減らし空間に余裕をもたせ行いました。利用者様には安全性と季節感を感じる行事に大変好評をいただきました。9月の敬老会では、BINGO大会を開催しプレゼントを配布しています。



感染対策を行いながらも、今後も**利用者様に喜んでいただける**サービスを職員一同考えていきましょう。

コロナに
なんか
負けないぞ！





中村橋福祉ケアセンター

グループ外出してきました!

地域活動支援センターⅢ型では、新型コロナウイルスの影響で毎月恒例の外出プログラムを自粛していましたが、感染防止対策に十分配慮した上で小規模ながら実施することができました。

行き先は「豊島区立トキワ荘マンガミュージアム」です。外出場所の選定には、①送迎バスで外出できる近距離にあること、②感染対策が十分に配慮されていることを重視しました。特に②は職員が下見を行い、見学対応について十分な意見交換を行いました。外出は3日間に分けて実施しました。

館内は入館人数を制限しており、係員の丁寧な誘導で密とならないよう配慮されていました。ゆっくりと安心して見学することができ、皆さんの笑顔がたくさん見られました。



このような状況ではありますが、利用者様が安心して参加できる活動を今後も提供していきたいと思っています。

いずみの苑

顔の見える面会工夫してます

いずみの苑の特養ではこのコロナ禍の中で、ご家族に会えない日々が続き、利用者の皆様も寂しい時期が続きました。どうしたら面会ができるかを考え、まずオンラインでの面会を始めました。

さらに近くで会える方法を検討した結果、居室廊下とベランダのガラス越しに利用者様とご家族が面会できる仕組みを考案しました。施設内の安全を確保でき、ゆっくり顔が見られ話もでき好評をいただいています。利用者様・ご家族様の笑顔を見ていると職員もうれしい気持ちになります。



「みんなで困難を乗り越え、前進しよう!」オー(ガッツポーズ)!をスローガンにいずみの苑では施設に関わるみんなで力を合わせてこの状況を乗り越えて行きたいと思えます!

東が丘荘

新しい生活様式でリフレッシュ!

東が丘荘では、コロナ禍での行事は、「3密を避ける」、「消毒する」、「換気に気を配る」、「書面で開催する」等、以前とは大きく様変わりしました。

そんな中、一早く取り入れたのが、ZOOMを用いたリモートヨガです。利用者数は6名と限られていますが、Yoga Space シャンティ Mind 代表 小林 律子講師の姿を大画面に映し出し、講師と離れている違和感もなく、細やかな指導を受け、コロナに負けない気持ちと体を整えています。



他施設の皆様も、この機会をやり過ごすのではなく、新しいことに挑戦するチャンスだと捉え、一緒に前進していきましょう!

コロナに負けない！ みんな一緒に乗り越えよう！！

前野福祉園

With コロナ in 前野

感染拡大防止対策として、登園時の手指消毒器の設置、非接触型体温計の導入、座席配置の変更、仕切り板の設置、密にならないように促す表示の掲示等を行いました(対策開始当初は戸惑っていた方も今ではすっかり慣れました)。

また、空気清浄機も新たに導入しました。また、正面玄関前で行っているお菓子販売では販売用ワゴンをビニールで仕切る等の対策をしています。

今後もwithコロナという気構えで長期戦を覚悟して取り組みます。
みなさん、ともに頑張りましょう。



特別養護老人ホーム蔵前

コロナに負けない！

暑気払いの開催

コロナ禍で、行事等の自粛が続いていましたが、利用者の方に「少しでも楽しい時間を」の想いから、くらまえ高齢者在宅サービスセンターでは、「暑気払い」を開催しました。高知県にある老舗の氷屋から、インターネットで注文した「お取り寄せかき氷」は、大変好評でした。

感染対策グッズ最新情報

今やコロナ禍では、必需品のマスク。蔵前では、涼しいマスクと巷で人気のミズノマスクを、全職員に配りました。使い易さや、カラフルな色のマスクは、職員から高評価です。

コロナと戦っている仲間に感謝を！
そして、敬意を！



編集後記

各施設の広報委員と一同に集まらないまま、特別号としてなんとか協力し発行できました。広報委員と各施設職員の協力に感謝いたします。

コロナ禍の中、今すべての人が、自分自身が感染しない様に、自分から周りの人へ感染させない様に

することが重要であるとひしひしと感じています。

今後、広報誌をリモート会議で編集できないか検討しています。

そして広報委員が心をつなげて、法人の「いま」と「これから」を皆様にお届けできるよう努めてまいります。



東援だより 第35号

発行日 令和2年11月2日

発行者 山口 桂造

社会福祉法人 東京援護協会

東京都千代田区鍛冶町1-8-5

新神田ビル2階